

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 徳真会
施設名	ほうとく保育園
報告者（役職）	齋藤徳仁（施設長）
住所・連絡先	福島県二本松市高田2番1
	☎ 0243-24-8223
	E-mail qqsb6my9k@lime.ocn.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

「あそび」を工夫して、子どもたちを元気に（ソフト積み木を通して）  
——子どもが「あそび」を創造し、体験しながら発展させていく指導のあり方——

### ○主な助成備品

ソフト積み木（ソフトブロック）、バランスキューブ、滑り台、砂場、

### 1. 保育計画策定の目的

これまで何気なく行ってきた保育の必要性の再確認やプログラムを実施するうえでの問題点を確認し、きめ細かなプログラムを作成したい。子供にとっての「あそび」について、市販の「遊具」を購入し与えるだけでは解決しない。その意味や意義を問いながら実践し、振り返ることを繰り返すことが大切である。子どもの発達を問い直しながら、プログラムや環境を再構築していきたいと考えている。子どもの心と身体の成長にとって、「あそび」は、大きな意味があるということをもっと明らかにしていくことが必要である。そのためには、ただ遊ばせておけばよいのではなく、子どもの「あそび」を研究し、夢中であそぶことを十分に体験させることが大事です。保育者は、一人一人の子どもの「あそび」をよく観察し支援できることが大切であると考えた。

### 2. 具体的な実施内容

保育は確かに難しい仕事です。子どもが楽々と育っていくように見えて、その裏の支えと仕掛けと深まりを可能にするように、保育者が裏方で働いているのです。これからは「保育」を科学に変えていこうという取り組みが大切であると考え、仮説をもとにした意識的な研究をした。初めての研究に若い先生方は真剣に取り組んだ。

#### 《研究仮説》

子どもが具体的素材（助成備品）をとおして、自由に「あそび」を工夫し、創造させ、楽しい子どもの「あそび」を保育者が支援してやることにより、子どもたちが主役になって活動するようになるであろう。

#### 《観察の視点》

子どもが具体的素材（助成備品）をとおして、遊んでいる様子をよく観察し、記録しておく。

- ① 子どもが工夫した楽しい「あそび」を見つける。

- ② 子どもが毎日遊んでいることは、常に創造した「あそび」であることを念頭において観察する。
- ③ 保育者自身が小さい時、わくわくドキドキした感情を思い出して、もう一度そうした遊びへの期待感をもつような「あそび」を見つける。
- ④ 保育者自身が子ども時代、どんなことをして遊んだか、どんなことが楽しかったかを思い出して、子どもが楽しい「あそび」を見つける。

※子どもの「あそび」をじっくり観察することにより、「ひとり言」「なめる・にぎる・振る」「ほしいものに手を伸ばす」「興味あるものに自分から働きかける」「失敗もへいき」「人のしていることをまねる」「自分のイメージするものを形として表現している」等が分かる。

☆《実践例 1 》 (0歳児)

岡田幸江保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“私もカーテンにとどいたよ！”



[子どもがあそんでいる様子]

- 一人に一つずつ積み木を渡すと、順番に並べていく。すると、そこに座る子、渡り歩く子、ハイハイする子、などいろいろなことにチャレンジし始める。
- 一人が積み木を持ちだし、壁際へ行き、積み木を台にして、いつもは手が届かないカーテンに触り始める。他児もまねをして次々と壁際へ
- 「お片付けだよ！」という保育士の言葉かけにより、自分が使っていた積み木を保育士のところまで持って来て手渡す姿が見られた。

[子どもの工夫・新しい発見]

- 積み木を立ててみたり、2個まで積み上げることはできるようになってきた。一人が新しいことをすると模倣し、一緒に楽しみ、声を出して笑っていた。

☆《実践例 2 》 (1歳児)

大和志津香保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“滑り台の滑り方を工夫して”



[子どもがあそんでいる様子]

- 初めはお尻をついて座って滑っていた子どもたちだったが、一人の子が立って駆け下りると、その様子を見ていた他の子どもも真似をして立ったまま下りていった。
- しばらくそれを繰り返していくと、今度は頭から滑っていったり、横になって転がったりと、自分で滑り方を変えて楽しんでいた。

[子どもの工夫・新しい発見]

- 友だちが滑っているのを見て真似したり、難しい滑り方にチャレンジしたりする姿が見られた。

[保育者の支援] ●危なくないようマットの上にソフトブロックを置く。手を添える。

☆《実践例 3 》 (1歳児)

三浦早苗保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“積み木を重ねてあそぶ”



[子どもがあそんでいる様子]

- 初めは積み木の上に乗ったりしてあそんでいたが、そのうちに次々重ねてあそび始める。
- 一人が高く積み重ねはじめると、みんな集まりみんなで重ね始めた。
- そして一度崩れたら楽しくなり、また、みんなで重ねては崩しの繰り返しであそぶ。  
(「壊す」というあそび)

[子どもの工夫・新しい発見]

- 積み重ねると崩れてしまう。それが面白い！

[保育者の支援] ●次々に集まり、重ねられないので順番でやるように声かけをする。

☆《実践例 4 》 (2歳児)

小野征子保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“かくれんぼごっこ”



[子どもがあそんでいる様子]

- 4, 5人でバランスキューブを並べたり、重ねたりしてあそびます。

- 少しの空間を見つけて二人の中に入って騒いでいると、周りの子どもたちも興味を持ち中に入ろうとする。
- 隠れているのを見つけた男の子と女の子が「鬼だぞー」と言いながら近づいてくる。
- 隠れていた子どもたちは、驚いて「キヤー」と言いながら逃げ出したり、また戻って来て隠れたりしながらあそびを楽しんでいた。

[子どもの工夫・新しい発見]

- 2種類の遊具を組み合わせ、向きや角度を変えながら、隠れる空間を作ろうと工夫していた。

[保育者の支援] ●隠れたり、出たり入ったりと動きが激しかったのであそびを見守った。

☆《実践例 5》 (3歳児)

武田麻耶保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“バランスごっこ・電車ごっこ”



[子どもが遊んでいる様子]

- ソフト積み木を縦に立て、その上を慎重に登りバランスをとっている。
- ソフト積み木を大好きな電車の形に組立て、電車ごっこを楽しんでいる。

[子どもの工夫・新しい発見]

- 初めてソフト積み木を縦に立て、その上に上る。初挑戦!
- 友だちが上手に立つことができると、次々と並べ、長くしていた。
- 運転手になり、ごっこあそびを楽しむ。

☆《実践例 6》 (5歳児)

相川友里恵保育士

[子どもが工夫した「あそび」]

“すべり台・砂場”



[子どもが遊んでいる様子]

- 登って頂上まで行く
- すべり台を滑る
- 下からバケツに砂を入れ、頂上の人に渡す
- 頂上を船に見立て、草や木で釣りを楽しむ。

## [子どもの工夫・新しい発見]

- 頂上で登れた達成感や頂上を船の上にしたりにしていた。

### 3. その成果と評価

#### 《成果》

この研究を通してわかったことをまとめてみると、以下のようなことに気付いた。(上記実践例は一部分である)

- ① 創造的な内容の「あそび」
- ② 生活的な内容の「あそび」
- ③ 一人で楽しむ「あそび」
- ④ 子ども同士で楽しむ「あそび」
- ⑤ 造形性のある「あそび」
- ⑥ 身体的な内容の「あそび」
- ⑦ 表現活動的な内容の「あそび」
- ⑧ 構成的な内容の「あそび」
- ⑨ 美しいものに感動する「あそび」
- ⑩ その他に、頭の中でイメージして作り上げていく「あそび」(積み木、ブロック、砂場など)
- ⑪ (壊す)という「あそび」・・・大事なあそびである。

### 4 . 今後の課題と展望

「ソフト積み木」を利用して遊ぶだけでも子どもたちは全員、何時間でも、何日でも遊んでいる。保育園の子どもたちには<遊びながら学ぶ>ではなく、<「あそぶ」ことが学ぶ>であることがよく理解できた研究であった。子どもの生活の中核をなす「あそび」、保育者は子どもの「あそび」を、どのように考えればよいのか、よく観察することである。

#### 《今後の課題》

- ① 子どもの「あそび」を発展させるために、保育者がどのような個に応じた援助・働きかけをしたらよいかを今後研究したい。
- ② 「あそび」は特定の目標を達成させることが目的ではないので、それぞれの子どもの個に応じた援助を考えなければならない。
- ③ 保育は確かに難しい。こうしなさいと指示してしまえば簡単ですが、それでは子どもの力はつきません。子どもの創造的な活動の様子をじっくり、丁寧に読み取り、次への支援の手立てを考えていかなければならない。
- ④ ただ遊具を与えておくのではなく、一人遊びの環境をどのように設定したらよいか。
- ⑤ 「あそび」を大切にする保育所のあり方
- ⑥ ゆったりとした時間の中で、子どもが夢中で考えながら、あそべる環境のあり方  
そのために、子どもの見方も、教材の活かし方も、保育者は学ぶのです。子どもから学び、保育者同士が学ぶのです

「成果報告」ということで、初めて研究手法に基づいて1年間、全員で実践例を集めてみました。まだまだ研究というわけにはいきませんでした。子どもの「あそび」を意識的に観察する中で、あそびが発展していく様子・広がっていく様子・あそびの工夫・新し

い発見を観察できた。また、それぞれの「あそび」に対する支援を、個に応じて考えなければならぬことの大切さも分かった。今後継続して研究していきたいと考えている。

以上